

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

堺市立大仙小学校
校長 伊藤 秀郎

旭学校群教育目標 自ら課題をみつけ、仲間とともに未来を創り出す子どもの育成

令和7年度 学校教育目標 「社会と向き合い、主体的に学び、考えを表現できる子どもの育成」
児童の安全・安心を基盤とし、教職員が子どもたちの「確かな学力」・「豊かな人間性」・「健康・体力」の発展・充実をめざす学校教育活動を行う。そのような学校教育活動をととして、子どもたちが家族・友だち・地域・社会とつながり、主体的に学び、自らの思いを表出できるようにしていく。

<p>「確かな学び」の現状 基礎学力を大切に、それらを土台に次の学習を丁寧に積み重ねていくよう、「学校」・「授業」の基本に戻ると同時に、校内研修では、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の観点から、一層の授業改善を模索していく。また、学びのコンパス・STEAMに基づく授業を実践していく必要がある。一方で、既習事項の定着を図るための方策を考え、実践しているかなげばならない。</p>	<p>「豊かな心・健やかな体」の現状 子どもたちが、本校の学校教育活動をととして、より一層、豊かな人権感覚を身につけ、「生きる力」の基本となる体力の充実が求められる。規則正しい生活を送ると同時に、他者との関係を大切に、他者に寄り添い合うことができる関係を主体的に築くことができるようにしていく必要がある。そのために、今年度、各学年で仲間と力を合わせて何かを成し遂げる喜びを分かち合えるような経験ができるようにしていく。</p>
---	---

中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★学校群での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～10月)	達成状況(年度末)				
							自己評価	学校関係者評価			
確かな学び	学びの系統性と総合的な学力の向上	●★学校群、学校教育目標におけるめざす子ども像の実現にむけて、小中9年間を見通した学校教育活動をおこなう。授業では、「学びのコンパス」・「STEAM」を意識した実践をととして子どもたちが主体的に学びに向かう力を養う。	児童対象アンケート「わからないところを尋ねたり自分で調べたりする」肯定的回答85%以上	学校教育アンケート	1月 末	B	学校群については最優先事項であるが、旭中学校3校のうち、2校で校長が変わったため、より効果的な学校群の在り方を模索し、毎月校長が集まり話を進めた。研究授業については、「主体的」「対話的」「学びの深まり」を具体的にめざすものを各学年でおこなった。関係者も園の職員にも来てもらい、修学前の視点からも、討議会では意見をいただいている。	B	児童対象アンケート③の結果は、肯定的回答率89%。目標値はクリアしているが、学校群について定式化できていないことから、「B」とした。	B	系統性も大切だが、人権意識や心の成長が良ければ、学習成果よりもそちらのほうがずっと大事。
		●子どもたちの「主体的な学び」・「対話的な学び」・「学びの深まり」をめざす授業研究に取組む。年間6回の研究授業をおこなう。	「学校において、学習の過程をふりかえり、自分の学びが深まったり、広がったりしたと思う」肯定的回答80%以上	学校教育アンケート	1月 末	A		A	全国学テ⑩のアンケート結果は81.3%。総合学力ア⑦の目標も学びに向かう姿勢が良い。研究授業もおこなっている。	A	アンケートの下落具合は少し気になるが、学びに向かう姿勢が良好なことは評価できる。
	生きる力のもととなる基礎・基本の学力の定着	●漢字の読み書き、計算練習に取り組み、家庭学習の習慣作りと併せて、児童の基礎学力の定着を図る。	学力調査や学校アンケートでの肯定的回答率85%以上	各種調査・学校教育アンケート	1月 末	B	上記の続きとなるが、「主体的」「対話的」「学びの深まり」を授業でめざす一方で、基礎的な学習事項の定着に課題がみられる児童が存在する。基礎的な学習内容、特に漢字や計算については、既習事項の確実な定着を図るための時間が必要であると考えている。一人一台のタブレットについては、キーボードタッチの練習などを進めているが、持ち帰りや不登校対策としては、教育委員会が望んでいる使用はできているとはいえないように考えられる。	B	児童対象アンケート⑥の結果は92%。但し、客観的な調査結果から、「B」とした。	B	基礎学力とは、思っていることを頭で考えて整理し、正しく発話すること。自分が言いたいことをきちんと伝えることが大事。表現がずれてたり間違っているとお互いの関係性に意図しないところですれ違いが起きる。結果軋轢が生じる。省略された言葉が多すぎる。主語や述語がきちんと伝えられるようにすることで意思の疎通が生まれ、意欲的な子の姿が増えていくと考えている。
		●児童1人1台パソコンやICT機器を適切に活用した授業に取り組む。	「授業でPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用したか」週3回以上回答率90%以上	学校教育アンケート	1月 末	B		B	児童対象アンケート⑩の結果は43%。実際には授業での活用はおこなっているため「B」とした。故障が多かったことが低肯定率の原因か。	B	
		●子どもたちが、自分の考え方や理由を明らかにしたノートに授業でつづることができるようにする。	授業において、「自分が考えた事柄やその理由をノートに書いていますか。」肯定的回答80%以上	学校教育アンケート	1月 末	A		A	児童対象アンケート④の結果は90%。各教職員はノート指導をおこなっている。	A	
	豊かな人間性	豊かな人権感覚と道徳性の育成	子どもに寄り添い、理解し、支援・指導するなかで、子どもたちにとって居場所と出番がある学校教育活動を行い、子どもの自尊感情を育成する。	「自分にはよいところがある」肯定的回答90%以上	各種調査・学校教育アンケート	1月 末	A	一定数の児童は、様々な面において個別指導を必要としており、一定の時間、寄り添うことが求められている。そのことは、それらが必要な児童にとっては、必要な最低限のことであり、道徳性の涵養や、人権意識の向上とは分けて考えられるべきである。国際理解教育や人権教育、平和教育については、意識して設けられており、全学校教育活動を通じておこなわれているほか、学校の体制として時間が割かれている。	B	児童対象アンケート⑧の結果は、85%。自尊感情についての評価は、今後個別の児童に寄り添っていくことが必要だと感じている。	A
●特別支援教育、国際理解教育、道徳の授業などの充実をはかり、思いやりの心をもち、他者を大切に児童を育成する。			「友だちが困っているときには、自分からすすんで助けようと思う」肯定的回答90%以上	学校教育アンケート	1月 末	A	生活目標の徹底という部分では、いささか、徹底について課題が見られた。	B	保護者対象アンケート⑨の結果は91%。但し、学校側の徹底には課題があると感じている。	B	
子どもたちに、学校での生活目標を明示し、教職員がその達成に向けて学校教育活動のなかで取組む。		「学校は、学校や社会のルールや決まり、マナーを守る指導を行っている」肯定的回答90%以上	学校教育アンケート	1月 末	B		B	このような公衆衛生的な課題については、家庭との連携が必須となる。通常の学校教育活動のなかでできることについては、さらにブラッシュアップをはかる必要がある。健康は身体的側面だけでなく、心身一つのものとして捉えることが必要である。	B	体力と精神力はつながっているように感じている。体力をつけることで精神が鍛えられ集中力がつく。学校をあげて体力向上の取組を今後も期待している。	
健康・体力	心身の健康 体力向上	健康的で、安全・安心な生活習慣の定着を図る。	「健康に気をつけて生活をしている」肯定的回答90%以上	学校教育アンケート	1月 末	B		B	全国学テ71のアンケート結果は81.3%。家庭との連携は益々必要。	B	
		「体力向上プラン」をふまえた体育授業の充実、保健や食育と合わせた健康についての指導を行う。	「体育の授業が好き」と答える児童の割合80%以上	学校教育アンケート	1月 末	B		A	児童アンケート⑮の結果は90%。全国同様、運動するしないの2極化は課題である。食育を含め、「A」とした。	A	
安全安心な学校づくり	危機管理 安全・安心な教育環境	●★いじめアンケートによるいじめの早期発見につとめ、子どもたちが心理的に安全・安心して学校で過ごすことができるようにする。子どもたちの情報については教職員で共通理解ができるようにする。	「学校は、児童一人ひとりを大切に、安心して生活や学習ができる教育活動を行っている」肯定的回答90%以上	学校教育アンケート	1月 末	A	いじめや、子ども・教職員の「心理的安全性」については全教職員が細やかに気をつけてきている。しかし、一方で教職員の意識や具体的な行動にかかわらず、子どもの動きが予想より大きくなる場合がある。	B	保護者対象アンケート⑬の結果の肯定率86%。安全・安心の確保は、対策をおこなってやりすぎることはない。	A	学齢期の成績、人間関係だけが全てではない。大人になっていく行程は幾通りもある。困っていたら助けてあげる、声をかけてあげられる、そんな大人になっていくことの方が成績上位であることよりもずっと価値があると考えている。今よりもっと「地の自分」を出せるように居場所づくりにより更に励んでいきたい。
		毎月の安全点検、避難訓練、緊急下校指導を実施し、子どもの安心・安全を守る意識の向上をはかる。また、通学路の安全を確保していく。	「学校は児童が安全に生活できる環境づくりを行っている」肯定的回答90%以上	学校教育アンケート・取組実績	1月 末	A	安全点検や校舎修繕については必要な個所に必要な処置をおこなっている。但し、校舎修繕費の範囲では十分ではないもの、地域との関係上必要とされ急ぐものなどがあり、修繕関係は困難な部分もある。栄養給食が配置されていないが、教頭と給食主任が協力し合って安全な給食につとめている。	A	保護者対象アンケート⑮の結果の肯定率95%。校舎修繕の観点から、児童の安全を考えることも必要。	A	食物アレルギーにおいては今後も安心安全な給食に取り組んでいきたい。
		●教職員が食物アレルギー等についての理解を深め、子どもたちにとって安全・安心な学校給食の徹底をはかる。	「学校は、児童に健康や食事、安全に関する指導を行っている」肯定的回答90%以上	学校教育アンケート	1月 末	A		A	保護者対象アンケート⑬の結果の肯定率96%。誤食が起らないよう、全教職員が協力している。	A	
地域協働	家庭・地域と連携した教育の推進	●学校HPを活用し、学校教育活動を公開・発信する。保護者や地域の方が、学校の様子や雰囲気やHPを見れば分かることができるようにする。	「学校は、HPや行事・参観等を通して、学校生活や教育活動を公開し、家庭や地域と連携・協力している」肯定的回答90%以上	学校教育アンケート・取組実績	1月 末	A	HP、tetoru、学校だよりについてはできるだけ保護者にとって必要な情報が必要な時期に届くよう心掛けて発信している。	A	保護者対象アンケート⑮の結果の肯定率94%。HPでの学校での児童の様子や発信には力を入れている。	A	保護者も学校からの情報発信には高い関心を持っている。更なる公開に期待している。

<p>校長より(年度末) 本校に令和7年4月に赴任してきてから、目標設定と児童の実態に乖離がないように努め、学校力アンケートを作成し、学校群での話し合いを持つなどしてきた。児童は素直で優しく、気遣いができる。今後、基礎・基本の定着をめざす取組が必要である。また、タブレットは故障が多かった。タブレット更新後はタブレットの活用をさらに意識的にこなす必要がある。</p>	<p>学校関係者評価者から(年度末) 先生方の努力が結果として表れていると感じています。大仙の地域や子どもたちの良さを今後も大事にして教育活動に取り組んでいただきたい。卒業してからも、ずっとつながりがりのある関係性を築いていける方が子どもにとっては幸せだと思う。心身ともに豊かに育つ、大仙小学校であるよう、今後もよろしくお願ひします。</p>
---	---